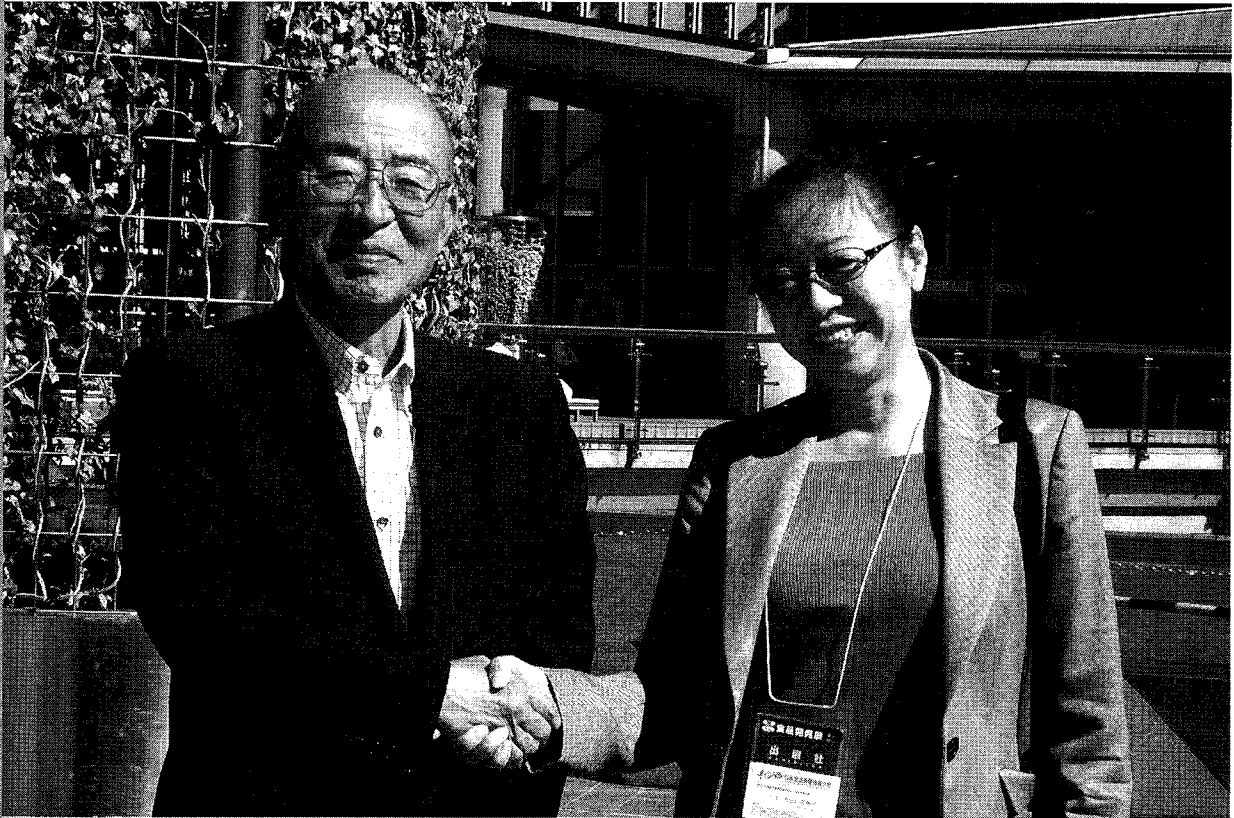


指導士の活躍するリアルな場を



公益財団法人日本健康・栄養食品協会
青山充事務局長

日本食品保健指導士会
松山理恵子会長

松山会長（以下「松」）：本日はお忙しい中、貴重なお時間をいただきありがとうございます。

青山事務局長（以下「青」）：こちらこそよろしくお願ひします。緊張しますね。（笑）

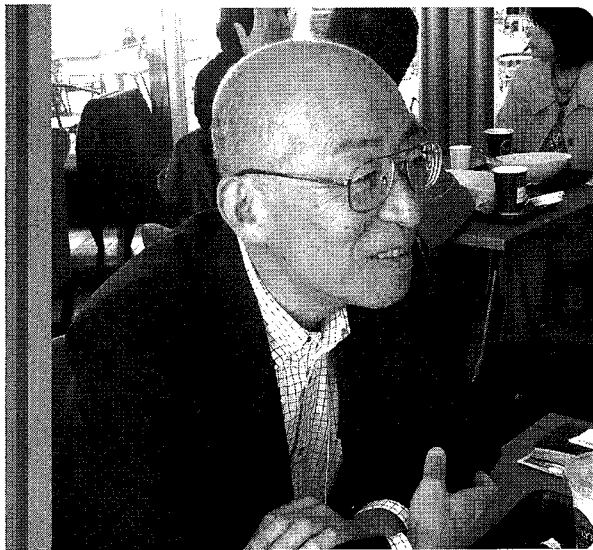
松：ところで事務局長さんは以前は何をされていらっしやったんですか？

青：実は茨城県庁保健福祉部で次長として所属10課を統合しながら、その1つでもある保健予防課長も兼務していました。保健福祉部はそれこそ薬務課や生活衛生課（食品衛生）など

も所管していましたからそれこそ目の回るような忙しさでした。栄養士さんと一緒に健康づくりのお手伝いをしたり、県の「食育推進計画」の立案に関わったり…。

松：ということは健康行政すべてに現場で直接かかわっていらっしやった、健康のスペシャリストというわけですね。

青：それほど大それたものではありませんが、その前はがん対策を担当したり健康危機管理対策室長も拝命していた時期もありますので…。



指導士の育成は 公益財団法人の 主要3本柱の一つ 様々な視点で指導士 の強化に臨む！ (青山事務局長)

新型インフルエンザ対策も現場で経験しました。

松：管理栄養士さんのような栄養関係の専門家でいらっしゃるのか・・・？

青：いや、薬剤師なんですよ。

松：えっ、そうなんですか？イメージがちょっと・・・。

青：違うって・・・？（笑）

松：冗談はさておき、いきなり核心の質問です。実は今我々日本食品保健指導士会（以下：指導士会）はいろいろな問題を抱えながら手探りで進んでいる部分があります。その中でも大きな問題が指導士の活躍するリアルな場が今のところほとんど見いだせないということなんです。

青：私は実は今年の5月にこの公益財団法人日本健康・栄養食品協会（以下：日健栄協）に入ったばかりで、しかもに入った途端6月の消費者庁の「機能性評価モデル事業」の落札、7月の公益財団法人の取得とビックプロジェクトが続いてし

まってまだまだ勉強不足のところもあります。もう少しお話を聞かせていただけますか？

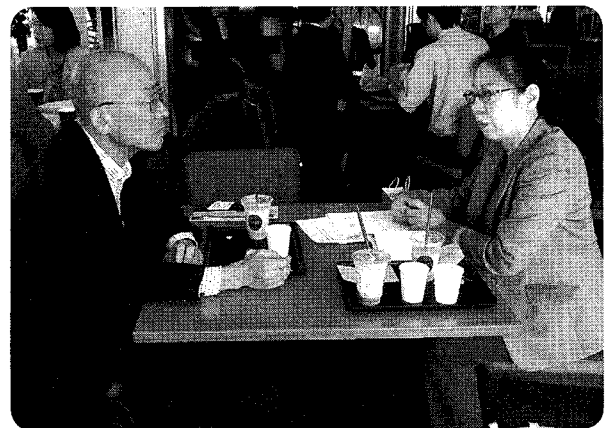
松：ご存知の通りこの「食品保健指導士」（以下：指導士）は国家資格ではありません。日健栄協が認可した民間資格です。しかしその認知度が一般の消費者にはほとんどと言っていいほど伝わっていません。ですから必然的に「健康食品に関する正しい指導を行う」という本来の仕事の依頼はほとんどと言っていいほどないのが現状です。

青：確かに今まで協会としても「活躍する場の創出に努力してきたのか？」また努力はしていたとしても「その場の創出がフィットしていたのか？」といったことの検証は必要なようですね。今回、協会が公益財団法人を取得したその活動目的の大きな柱の一つに「人材の育成」というのがあり、その範疇として協会としても指導士の活躍の場の創出を考えることなども必然のことと考えます。

松：我々ももっともっと勉強もしなければならぬこともたくさんあります。しかし自分たちの力ではどうにもならないこともあります。その辺を協会にぜひお願いしたいと思うんです。

青：公益法人が生んだ資格なんだというスタンスで議論するべきだし、何ができるのか、どういったアプローチがよりベターなのかといったベースの部分をもう一度再確認する必要がありますね。

松：指導士資格取得者は今年で1000名を超えました。少し古い資料なんですけどその70%近くが企業に勤務している方々です。でもその目的は



「純粋に健康食品の勉強がしたい」「健康食品の業界の情報がほしい」など様々です。

青：資格取得の目的は人それぞれでしょうしその立場によって変わってくるのも当たり前の話ですね。

松：また東京を中心とした首都圏の資格取得者が約60%でしかも本部が東京にあるため、この首都圏に近い方々はそれでも比較的いろいろな情報をとりやすいんですが、地方の方々はなかなかそうはいかない。

青：確かに松山会長とこうして膝を突き合わせて意見交換できますが地方の方々とはなかなかこうはいかないですね。

松：さらに2年前から始まった更新制度に関しても地方の方々はなかなか単位をとるセミナー自体がなかったりで不安だらけなんです。

青：指導士のレベルの維持・向上の意味ではこの更新制度は必要だと思うんですがお伺いしていると更新単位の取得に関してはいろいろと問題点があるのも事実のようですね。

松：各自が更新ポイントどれだけとっていてあとどれだけ必要なのかといった根本的な情報も把握しづらいといった現状もあります。もちろん指導士会で解決しなければならない部分もありますがぜひ協会にもご協力いただきたい。

青：あと、具体的な問題が何かありますか？

松：日健栄協本部の1Fにあったショールームが現在閉鎖されています。いままでは相談コーナーに平日は必ず指導士がいてそこに行けば仲間に会えるといったリアルな場があったんですが今はそれもなくなっています。

青：確かに空間が死んでいるという現実はおもったくないと思いますが、そうはいつでも協会の事情があって今すぐどうこうということができない現実もあります。これも青写真は私の頭にあるので協会内で早い段階で対応したいと思います。

松：ネット上で様々なことができる時代とはいえやはりお互い顔を合わせて話ができるということもとっても大切だと思います。地方の方も年に1回でも東京に出てきた時に仲間に会える場

があるだけで違うと思いますし…。

青：そうですね。今までもできる限りのご協力はさせていただいてきたとは思いますが、時代も少しずつ変わってきましたし、また指導士の人数も年々増えてきておりますのでもう一度基本的に見直してもいいかもしれませんね。

松：ぜひお願いします。協会と指導士会が「協働」して方向性を見出し、その方向に向かって指導士会自身が「自立」していく。これがこれからの最大の目標なんです。

青：ぜひ頑張って指導士会を盛り立ててください。我々もできる限りのご協力をさせていただくところをお約束します。

松：ありがとうございます。よろしく申し上げます。

平成23年10月6日（木）

東京ビックサイト（東京都・江東区）にて



**「協働」と「自立」は
これからの指導士会の
テーマ。**

**活動・向上の場の創造
と地方格差是正を！**

（松山会長）

期待の船出!

いよいよ

日本食品保健指導士会

九州支部が
立ち上がりました。

九州支部

副支部長古泉幸子指導士とのメールインタビュー!

広報: 基本的なことをお聞きしますが支部立ち上げのきっかけは?

古泉: 本部から何度も「九州にも支部を」と説得されたのがきっかけです。更新単位が取れる支部主催の研修会が他地区のようにあればと支部の必要性を感じ始めていた時で、池に投げ込まれた小石になればと思いい研修会を開催したのがきっかけです。研修会の継続性を考えると、支部を設立し本部より助成金を受けなければ資金的に続かなくなりますので是非でも支部をと奮起しました。

広報: そうでしたか。それでは支部立ち上げまでたくさんのご苦労があったかと思いませんか?

古泉: まずは九州地区の指導士の情報です。平成15年以降の情報がなかなか手に入らずに苦労しました。方針が時々変わったことも混乱を招きました。

広報: なるほど・・・

古泉: 第1期の指導士が誕生して9年、指導士の追跡が難しくなっていますし、食品保健指導士の更新制の周知がいき届いていません。更新制を知らない方が多いのを実感していますので更新時にグッと減るのではないかと心配しています。

広報: 確かにその件は全国的な問題ですね。

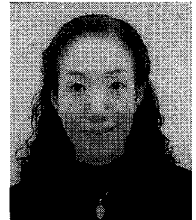
古泉: メールが九州ではまだまだ普及していません。アドレスを登録していただいた方が10人、内2人が携帯メールです。しかも職場のアドレス

今年度より支部の仲間入りができまして、公益財団法人日本健康・栄養食品協会および日本食品保健指導士会より多くのご支援を戴けることに、深く感謝しますと共に何より心強く思っています。

第一期の食品保健指導士が誕生してから9年、この空白の期間を埋めるべく、三三五五になっている指導士を参集し、情報と知識の交流の場を創成したいと考えています。

そして職場で、公共の場で、家庭で、健康補助食品等を安全かつ適切に活用するために、正確な情報を提供できる専門家集団になれるように、微力ながらお手伝いをして参りますので、どうぞよろしくお願いします。

支部長: 立川大介
副支部長: 古泉幸子
会計: 松永恵理子



に登録されている方もあり情報発信を躊躇してしまいます。結局郵送となってしまい時間も費用もかかり不便です。また、九州の業界の特長は中小企業が多くその社員さんが指導士に多いため、何をすることもバツティングしないように配慮しなければなりません。

広報: これからやりたいことは?

古泉: 九州内の各地方ごとの勉強会など開催。それを支部から金銭的に支援していく。さらに年1・2回、地方規模ではできないような研修会を開いて援護支援ができるようになればと考えています。

古泉: また近い将来、(公財)日健栄協が福岡に支所を置くとのこと。その一角に事務所を置かせていただいてセンター機能がもてるようになったらとも考えています。指導士相互の情報を中心となり、また指導士の認知度を上げる機能がもてる組織となることを願っています。

広報: 協会や指導士会に求めるものは?

古泉: 地方の事情や地域性がありますので、気長に見守ってください。これからもご支援、ご協力のほどよろしくお願いします。

広報: 今後の課題は?

古泉: 当面の課題は九州地区の指導士全員が更新時に1人も欠けることなく“突破”する事です。

九州支部秋期研修会

日時: 平成23年12月4日(日)
13:30~16:45 (受付13:15~)

場所: アクロス福岡 セミナー室1 (2F)
福岡市中央区天神1-1-1
TEL: 092-725-911

会費: 実費として1,000円徴収いたします。
(領収書は御用意しています)

お申込みはFAXかメールでお願いします。

なお、研修会にご参加の方は、指導士資格更新用単位1単位が与えられます。

連絡先

九州支部 副支部長 古泉 幸子
TEL&FAX 092-574-8676

プログラム

- ◎13:30~13:35 開会あいさつ
- ◎13:35~14:55 サーデンパプチドがトクホとして承認されるまでの“よもやま話”
仙味エキス株式会社 代表取締役 農学博士 成島 克裕 講師
- ◎15:10~16:10 日本健康・栄養食品協会と食品保健指導士の将来構想と使命
公益財団法人 日本健康・栄養食品協会 事務局長 青山 充 講師
- ◎16:20~16:45 事務連絡等

更新
1単位

東京支部紹介

東京支部長 田中 吉春



日本食品保健指導士会東京支部は、これまで年に3~4回の勉強会を開催してまいりました。しかし、3月11日の東日本大震災の発生により、昨年度の最後の勉強会として予定していました「GMP認定工場(株式会社皇漢薬品研究所・赤羽工場)の見学会」(3月26日開催予定)は残念ながら中止せざるを得ない状況になり、支部の勉強会としてはそれ以来休止状態となっています。

今年度から、支部長の私が日本食品保健指導士会の副会長に就任したこともあり、支部の皆さまには大変ご迷惑をおかけしております。申し訳ありません。

支部の勉強会は休止しておりますが、今年から秋期研修会は支部単位で開催することとなり、既にご案内の通り本部との共催で12月4日(日)に「消費者庁「食品の機能性評価モデル事業」の概要と背景・アドバイザー」スタッフはこの事業から何をj得ることができるか」を開催することとなりました。講師は、このモデル事業の評価パネルの座長をされています金澤一

郎先生にお願いいたしました。

金澤先生は、東京大学名誉教授で6月まで日本学術会議の会長を務められ、また、天皇陛下や皇族方がご病気やご出産された際に、皇室医務主管として記者会見にも出られていますので、皆さまご存知かもしれません。

ここで機能性評価モデル事業について補足します。この事業は、いわゆる健康食品等の機能性について科学的に検証し、可能な範囲で機能性表示を認めようとする画期的な試みです。私たち食品保健指導士にとって、健康食品の表示が多少でも緩和されれば、大変喜ばしいことですので、このモデル事業の成果は大いに気になるところです。

なお、今回初めての試みとして、慶應義塾大学薬学部(旧共立薬科大学)の生涯学習センターと共催させていただくことになり、会場も慶應義塾大学芝共立キャンパスのマルチメディア講堂をお借りました。また、懇親会も大学に隣接する芝パークホテルで行いますので、是非ご参加ください。

最後に、東京支部の今年度の勉強会は、来年早々に少なくとも一回は開催することをお約束いたします。

これからも日本食品保健指導士会東京支部の活動にご協力とご支援をお願い致します。また、支部の活動をお手伝いいただける方がありましたら、是非ご連絡下さい。

東京支部秋期研修会

消費者庁「食品の機能性評価モデル事業」の概要と背景

日 時：平成23年12月4日(日)
14:00~16:00

会 場：慶應義塾大学薬学部1号館
(マルチメディア講堂)
〒105-8512 東京都港区芝公園1-5-3
TEL:03-3434-62410

参加費：会 員 事前登録1,000円 当日1,500円
その他 事前登録2,500円 当日3,000円

懇 親 会：4,000円(芝パークホテル)

お申し込みは メール：info@jfqao.jp FAX：03-3268-3136

講 師：金澤一郎氏(国際医療福祉大学大学院
院長 東京大学名誉教授)
消費者庁「食品の機能性評価モデル事業」
評価パネル座長

主 催：日本食品保健指導士会
日本食品保健指導士会 東京支部

共 済：慶應義塾大学薬学部生涯学習センター

後 援：公益財団法人 日本健康・栄養食品協会
慶應義塾大学 薬学部

更新
1単位

金澤一郎氏と
田中支部長



「食品の機能性シンポジウム

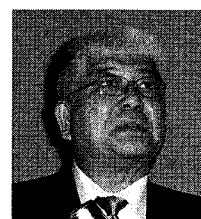
~健康食品の機能性表示を目指して~



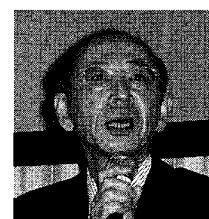
下田理事長

平成23年10月25日、公益財団法人日本健康・栄養食品協会(日健栄協)は一般社団法人機能性食品開発支援機関協議会との共催で「食品の機能性シンポジウム~健康食品の機能性表示を目指して~」を学士会館(神保町)で開催しました。業界関係者約150人が集まり会場は満員、大盛況となりました。開会に先立ち、日健栄協の下田智久理事長が「健康食品業界の健全な発展はいかに国民に正しい知識を伝えることができるかにかかっています。消費者庁の機能性評価モデル事業は今後の表示問題に大きな意味を持つ事業で受注した当協会としてもフル回転でプロジェクトを実施しています。」と意気込みを語りました。

基調講演「食品の機能性評価について」では、同事業の評価パネル座長を務める金澤一郎先生(国際医療福祉大学大学院院長・東京大学名誉教授)が同事業の進捗状況を含め、同事業の概略を説明、最後に日健栄協・加藤専務理事の挨拶でシンポジウムは閉会しました。



金澤一郎氏



加藤常務理事

関西支部紹介

関西支部長 坂口 陽子



指導士会員の皆様におかれましてはご活躍の事とお喜び申し上げます。
 私たち関西支部は企業にお勤めの会員さんが多く活発な活動も出来ない現状です。
 そんな中でも先日役員会を新大阪で開催し役員5名で今後の活動や支部運営について活発な意見を交換致しました。
 ①協会の法人会員各位にも研修会の案内を送付願いたい ②支部において単位の把握をできないのか？
 ③法人会員：一般の人対象の講演会の開催が出来ないか？ ④講義のDVDでの単位の修得ができないのか？
 ⑤関西支部の会員数の把握が出来ないのか？ ⑥知名度の向上の為に働きかけを役員が行なう。

行政や個人へのアピール活動を実践し知名度の向上を図りたいと思っております。

関西在住の指導士の皆様は東京で開催される研修会や勉強会にはなかなか参加がしにくく関西地区においても会員同士の知識の向上や情報交換が出来ればいいとの思いから関西の活動が始まりました。

しかし広範囲に在住されている為集まりを持つのもなかなか大変な状況です。

私どもには大きなことは出来ませんが

1. 知名度の向上につながる行政や団体へのアピール活動 2. 役員近隣の方への参加要請 3. イベントへの参加などの活動が可能な事からスタートしたいと思っております。指導士会には活動の為に資料の作成をお願い致します。指導士は消費者と身近な関係が持てるよう努力したいものです。

関西支部秋期研修会

日時：平成23年12月11日(日)
13:30~16:40

場所：新大阪丸ビル新館
5階 506号室(新大阪駅前)

会費：実費として1,000円徴収いたします。
(領収書は御用意しています)

後援：神戸薬科大学同窓会生涯研修企画委員会

参加費：1,000円

懇親会：研修会終了後に懇親会を予定していますので、ご参加をお願いします。
 場所 ニューオオサカホテル13階「ベルビュー」
 会費 3,000円

プログラム

◎13:30~15:00

講演1 「小林製薬の栄養補助食品」

小林製薬株式会社 通販事業部通販開発部研究開発グループ 長尾 淳二先生

◎15:10~16:40

講演2 「発酵を利用した機能性食品の最近の話題」

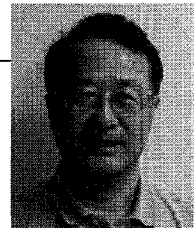
一きのご発酵食品による血栓症やガン予防へのアプローチー
 武庫川女子大学 生活環境学部 食物栄養学教授 松井 徳光先生

こちらのセミナーは、指導士資格更新用単位1単位となります。
 お申込みはFAXでお願いします。FAX 03-3268-3136

更新
1単位

東海支部紹介

東海支部長 柴田 勝



東海支部(静岡、愛知、岐阜、三重)は、名簿上の会員数は約100名ですが、実際活動しているのは、20~30名に過ぎません。この理由は、会員の連絡先が現実と違っていることが主因です。しかし、今後は会員の掘り起こしを何とか進めて、底辺拡大を目指したいです。次に、活動状況を紹介します。年間を通しての大きな行事は、春の「総会」、夏の「企業訪問」、秋の「研修会」からなります。この場合、会員外の知人、希望者に参加を呼びかけ、参加者を増やすのが特徴です。これがビジネスチャンスにつながれば幸いです。

秋期研修会のお知らせ

皆様にはお元気でご活躍のことと存じます。私たち食品保健指導士は、より適切な消費者への指導者や業務遂行の実力を高めるために、幅広い知識の習得が不可欠です。日本食品保健指導士会では、会員の実力アップのニーズに応えるため、毎年「秋期研修会」を開催いたしております。本年も名古屋会場での開催のご案内を申し上げます。秋期研修会にご参加いただきますと「食品保健指導士」の更新単位1単位が取得できますので、ご多忙中とは存じますが、積極的にご参加くださいますようお願い申し上げます。尚、会員以外の方もご参加いただけます。貴重な講演ですので皆様お誘い合わせのうえ、ご来場お待ちしております。

東海支部秋期研修会

日時：平成23年11月26日(土)
14:00~16:00

場所：「ウインクあいち」1208号室
名古屋市中区区名駅4-4-38
(愛知県産業労働センター内)

参加費：会員1,000円 非会員2,000円

懇親会：研修会終了後、会場を移して行います。
参加費 5,000円

申込期日：平成22年11月22日(火)までに

演題：「生活習慣病を予防する機能性食品の開発」

講師：鈴鹿医療科学大学薬学部 鈴木宏治 教授

更新
1単位

千葉支部紹介

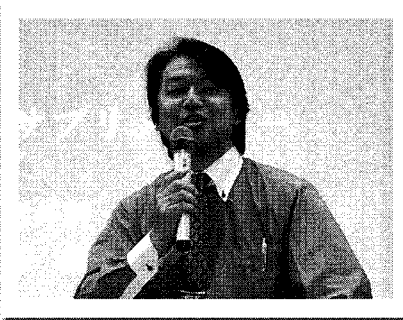
千葉支部長 吉池 修



千葉支部の発足は平成14年、指導士会の発足とほぼ時を同じくします。当初は支部組織も無く、「指導士の集い」として、指導士間のコミュニケーションを取り持つことを主目的とし、その為のツールとして指導士の中から講師役をお願いしアットホームな雰囲気の中で楽しい会合を重ねてきました。現在も基本は同じ千葉支部ですが、本年度のテーマは「一般消費者をも対象にした講演会の実施」です。

このテーマに沿って、6月には千葉市稲毛病院の佐藤医師による「メンタルサプリメント」講義を実施し、10月には大塚製薬と加賀田指導士による栄養補給についての講演、また来年2月にはロンドンオリンピックのトライアスロン女子代表に内定した上田藍選手による「スポーツ栄養」講義等、徐々に活動を広げております。今後は、一般消費者が参加費を払ってでも聞きにきたいと思う講師の選定並びに講演内容の検討等、一般消費者に期待される指導士活動を進めたいと思っております。

講演内容の報告(佐藤医師によるメンタルサプリメント)



6月26日(日)千葉市にあるビジネス支援センター会議室において、千葉市稲毛にある稲毛病院整形外科健康支援科部長昭和大学医学部講師の佐藤務医師による講演会を実施。

「健全な肉体の維持には精神代謝に配慮した健全な精神づくりが不可欠である。発達心理学においては、精神のピークは60歳台であり人間は60歳でようやく1人前になる」とした「新しいサプリメントの役割-メンタルサプリメント」と題した講演に、全国各地での講演による佐藤医師の評判も手伝って定員

70名の会場に、指導士14名を含み100名以上の聴衆が集まっていただきました。休憩なし4時間弱ぶっ続けという過去例のない大講義であったにもかかわらず、終了後の感想では指導士の方々のみならず、一般参加のほとんどの方から満足な講習会であったとの反響を頂き、ほっとした次第です。



千葉支部秋期研修会のご案内

千葉支部の秋期講習会は、平成24年2月5日(日)に実施致します。講師は来年のロンドンオリンピックトライアスロン女子代表に内定した上田藍選手。テーマは「スポーツと栄養補給」(仮題)。千葉市稲毛区を活動の本拠地とするプロのトライアスリートであり、今年の千葉国体優勝、世界選手権での数々の優勝、今年の日本総合チャンピオン等、小さな体でどうして世界の大型選手に打ち勝てるのか。驚異の体づくりのお話をさせていただきます。専属コーチの参加もお願いし、オリンピックへの応援を兼ねて一般の消費者をもターゲットにした新しいタイプの指導士講習会とする予定です。



更新
1単位

会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか？

6月の総会で新執行部の体制がスタートしてから5ヶ月が経ちました。皆様にはいろいろと迷惑をおかけして参りましたが、やっと今期、第1号の会報を出すことが出来ました。何の準備もないまま会長に就任してしまいあまりの膨大な業務に驚きと戸惑いで無我夢中で今日まで走ってきました。幹事や委員の皆様と協力しながら、健康博覧会及び食品開発展に出展、HPをリニューアルしメルマガを再開、九州支部が立ち上がり、今期の秋期研修会は、各支部が主催することが総会で議決され支部役員の皆様の協力を得ることで、開催を待つばかりになっております。

指導士会が発足して9年目を迎え、女性の会長は初めてですので風あたりも強いです。昨年「自立と協働」をかかげ歩んでおりますが、指導士会を活性化する為に今、何が必要か？一つはボランティアからの脱却。もう一つはコミュニケーションだと思います。会員の皆様を知ることだと思っています。情報を提供するだけの一方通行の会では何も起こりません。指導士会の法人化も知名度を上げるための方法だと思います。協会とのコミュニケーションも今まで以上にとりながら、風通しの良い関係で協働していきたいと思っています。

会員の皆様が「指導士になってよかった。」と思う日が来るよう先輩が引いてくれたレールを点検し、修繕しながら未来にレールをつなげたいと思います。会員の皆様の応援、ご協力を切望致します。

会長 松山理恵子



今年度から幹事に就任しました田中吉春です。幹事になって早々に、副会長という大役を仰せつかりましたが、もともと楽天的な性格ですので、「まあ何とかかなるか」とのんびり構えています。本人よりも周りの方たちの方が心配かもしれません。これまで3年間、東京支部長として指導士会と係ってきましたが、行き当たりばったりで何とかやってきましたので、このまま突っ走ろうかと考えています。

しかし、私自身、自分の悪運の強さに驚いております。というのは、私が副会長になった途端に、20数年前に研究のお手伝いをさせていただいてからずっとお世話になっている金澤一郎先生が、「食品の機能性評価モデル事業」の座長に就任されました。これは、講演をお願いするしかないと思い、国際医療福祉大学まで伺い、秋期研修会の講師をお願いした次第です。

これからは、松山会長を補佐しながら、この悪運の強さを武器に、食品保健指導士の皆さまの期待に答えられるよう務めますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

副会長 田中吉春



指導士会のさらなる発展に少しでも貢献できればと幹事を承りました。

昭和23年東京浅草生まれの団塊世代63歳です。今から23年前に、当時66歳の父親をすい臓ガンで亡くしました。父親は、身長175cm、体重80kgの健康自慢の体格でしたが、手術等のガン治療の痛みもなく、あっけなくこの世を去りました。その時、「いったい医療とは何なのか？」という不信感に陥ったことも事実です。父親の「健康が第一だぞ」という今際のきわの言葉が今も心に残っています。それが一つのきっかけになり、現在の私の仕事、サプリメントの企画販売に至ったのです。「予防に勝る治療なし」、そう心にとめて、サプリメントに限らず、あらゆる健康情報を発信していくことが自らの使命と考えています。もちろん私自身に対する健康法も率先して実行しています。例えば15年前には身長171cmで体重75kg（10kg以上オーバー）、体脂肪率25%のメタボ体質だったものを当社独自のダイエット法で65kg、15%に減量しました。そして現在は、4年前にボクシングを始めて62kg、10%を維持しています。毎年おこなう人間ドックの検査でも数値は全て正常です。酒、たばこもやりません。人間本来の寿命は120歳という説もあります。それに至らないのは、遺伝的なもの、ましてや運命的なものではなく「生活環境や生活習慣に問題がある」からだと考えられています。長寿をまっとうし最後まで健康で終わることをPPKといい、また「垂直死」とも称するようです。それを自分や家族らの目標とし、また、そのプロセスを踏まえながら世の中にミッションしていくのが私の考えです。まさに『食品保健指導士』は、そのことに対するうってつけの資格ではないかと思われるのです。指導士会のますますの発展のため、会員の皆様のお力添いをいただければ幸いです。

幹事 永島正一



執行
メン

皆様今日は、昨年に引き続き幹事をさせていただきます松田暁忠と申します。
 昨年は、前会長のご指名により副会長を仰せつかりましたが、今年は個人的な事情から幹事としてお手伝いさせていただきます。
 これからの業界は変革の時にぶつかり、私共の生みの親である日本健康栄養食品協会も公益法人になり、従来のようにご援助頂くことは困難になるとおもいます。私共も自立する事を考えるときに来ているのではないのでしょうか。
 従いまして、今年度中に法人化への方針を決めるべく、微力ではありますがお手伝いをさせていただきます。
 今後ともよろしく指導頂きますようお願いいたします。

幹事 松田暁忠

管理栄養士をしております早川と申します。これまで幹事の方々にお任せしっぱなしの一会員でしたが、この度ご縁があり幹事を引き受けさせて頂くことになりました。知らないことが多く他の幹事の方にご迷惑をおかけしていますが、食品保健指導士会にとって重要なこの時期に微力ながらも頑張っていきたいと思っております。皆様どうぞご協力の程よろしくお願い致します。

幹事 早川祥子

指導士会入会以来、東京支部の幹事として担当してまいりましたが、前会計の佐藤さんより引継ぎ今期より会計を担当させていただくことになりました。平日勤務が9:00~17:45となっている為、松山会長をはじめ他幹事の方々にフォローしていただきながらこなしております。皆様には何かとご不便をお掛けしているかと思っておりますがよろしくお願い致します。

会計の立場から一言：年会費の納入を期初にお願いしておりますがお忘れの方がいらっしゃいます。

会費納入も大事な更新ポイントとなりますのでご自分で納入されたか確認されたい場合はメール又はFAXにて指導士会までお問い合わせ下さい。またホームページには変更届け用紙がありますので姓名及び住所等変更があった場合にご利用下さい。今後、食品保健指導士の認知度が高められもって皆様がより活躍できる場を広められたらと願っております。

幹事 松本三恵子

第一期生として資格を頂いて以来、消費者教育の場の開拓を心がけつつ今日に至っております。関連する展示会などで感じるエネルギーを、消費者対応の基盤と受け止めながらも、この業界の経緯を振り返ると、商品と販売のシステムからの質問が多いのが頷けます。しかしクレーム対応も未来志向、個人に根付くライフスタイルの是正や食生活へのアドバイスと共に、適応するサブリを探索するのは楽しいひと時です。現在これら相談記録を編集し、その一つに「ワンポイントアドバイス」の事例を更に短縮して、五・七・五文字で投げかけ、キーワード探しのゲーム(ワークショップ)を考えています。指導媒体や仲間との交流の場も範疇にイメージして・・・。

後になりましたが、新体制の本会が始動しています。会計監事からのお願いです！全会員の会費納入をお待ちしています。

会計監査 岡村澄子

少しでも皆様と、この指導士会を成長させていくお手伝いが出来ればと考え、会計監査として加わりました。

私は、第2期の養成講習会を受講しました。受講のきっかけは、その頃、老人ホームの管理栄養士として勤務していました。食事が減少してしまったお年寄りが、有効に栄養摂取が出来る方法はないかと考えていたところ、講習会のことを知り受講を決めました。

終了後も勉強会等参加し、ここで得た人との繋がりや幅広い知識を仕事に生かし、皆様の健康作りに役立てることができています。現在は、障がい児の通所施設に勤務をしております。ここでも、食に強いこだわりを持った子供達が、1種類でも多くの食品を好きになれるよう、日々調理をしています。これからも、何かヒントになるものを見つけられるよう、アンテナを張っていきたいと思います。よろしく願いいたします。

会計監査 山田明子

墨田区食育フェスティバル

昨年に引き続き、今年も指導士会は「すみだ食育フェスティバル2011」(墨田区役所内・すみだリバーサイドホールにて6月15日(水)～19日(日)開催)に協力をいたしました。民間と行政(墨田区)が協力してダイナミックな「食育」に係わる啓発活動は、全国でも注目されているところです。具体的には17日(金)開催の「あなたの健康づくりをサポート!!～食事・運動・血管年齢測定～」のパート内での「①トーク・ミニ講座」、「②トーク相談コーナー」、「③トークホのパネル展示コーナー」を実施。①については、早川洋子指導士が15分間のミニ講座を3回実施。②については、早川洋子指導士と田中由美指導士が区民の相談に応じ、③について杉浦上太郎指導士が説明要員を務め、松山理恵子新会長は全体の円滑進行に務められました。当イベントは90名の締め切りの



早川洋子 指導士



左から 早川、田中、松山、杉浦、各指導士



ところ最終124名が参加、成功裡に終わりました。

墨田区管内保健所および墨田区地域活動栄養士の皆様方と協力しあって地域の「食育」に寄与するような活動は今後の指導士会の活動の大きな指針となることと思います。

(杉浦上太郎 指導士記)

熱気!

今年健康博覧会・指導士会主催セミナー

テーマは 現場



石井富佐恵 指導士

2011年6月7日(火)

健康博覧会

事前、当日合わせて42名が聴講した今回の指導士会主催のセミナー。今回は千葉県業務課において現役の相談員をされている石井指導士による「健康食品販売の現場で気を付けること」、そして自らが経営者として大成功を収めているそら株式会社の代表取締役でもある永島指導士による「いまから起業するSOHOで成功する鍵」、さらにカリスマダイエットアドバイザーとして活躍されている新藤指導士による「正しいダイエット指導法」。

キーワードは「現場」。石井指導士からは薬事法を中心とした現場での相談事例から健康食品販売の現場で注意しなければならないこと、永島指導士からはこれから起業される方への自分の成功事例から導かれた大企業にはできない事を中心としたアドバイス、新藤指導士からは目から鱗のダイエット指導法が聞かれました。

終わってからは聴講者からの質問やら名刺交換希望が相次ぎ、次の講習主催者から会場の交代を催促されるまでの状況でした。

日本食品保健指導士会は健康博覧会のブース出展も致しました。



永島正一 指導士



新藤律子 指導士

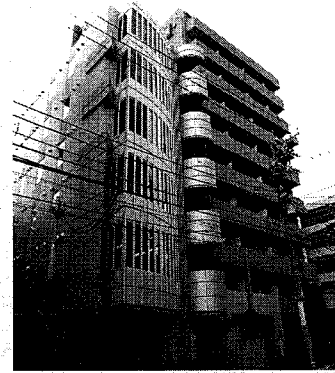
食品開発にもブースを出展



一方10月5日～7日まで行われた食品開発には公益財団法人日本健康栄養食品協会と共同でブースを出展、やはり指導士の啓蒙、勧誘を行いました。実際にここで指導士を知って11月の受験を決めた人も…。日健栄協のアンケート取りも職員さんと仲良く協力するなど和気藹々でした。でも忙しかった…。ブースに立った指導士の皆さん、お疲れ様でした。

日健栄協が公益財団法人を取得

平成18年6月2日に公益法人改革に関する法律(公益三法)が公布され、平成20年12月1日から新公益法人制度が施行されました。これに伴い日健栄協は平成23年1月に内閣総理大臣へ公益財団法人移行申請をし、内閣府より認定をうけて7月1日に「公益財団法人 日本健康・栄養食品協会(英文名:Japan Health and Nutrition Food Association)」として発足しました。



(公財)日健栄協が消費者庁「食品の機能性評価モデル事業」を落札



平成23年6月10日、消費者庁公募の「食品の機能性評価モデル事業」による入札が行われ、技術等提案書との合計で最高点となった、財団法人 日本健康・栄養食品協会(当時)が落札いたしました。

「食品の機能性評価モデル事業」は、11成分について諸外国における機能性評価制度の調査や、国内外の学術論文、研究機関等からのデータ収集を行い、これをもとに機能性評価を行うものです。今後の健康食品に一定の機能性表示を認める仕組みの研究へとつながる可能性を秘めている重要な事業になります。

【調査対象成分】

セレン、n-3系(ω 3)脂肪酸、ルテイン、コエンザイムQ10、ヒアルロン酸、ブルーベリー(ビルベリー)エキス、グルコサミン、BCAA(分枝鎖アミノ酸)、イチヨウ葉エキス、ノコギリヤシ、ラクトフェリン

【調査概要】

金澤一郎先生(日本学術会議会長)を座長とする11人の専門家で構成する「評価パネル」を設置し、その下に、(1)諸外国における機能性評価制度の

実態調査を行う「制度調査専門チーム」及び(2)評価対象とする栄養成分等毎に学術論文等からのデータ収集を行う「機能性評価専門チーム」を設けます。

「評価パネル」は、これら科学的知見等を踏まえ、食品の機能性の評価に係る評価基準の策定及び個別成分の評価等を行います。また、作業の全体統括及び企画を行うため、プロジェクト統括委員会も編成します。

<制度調査専門チーム>

米国、EU、中国、韓国、カナダ、豪州、ニュージーランドにおける「機能性評価制度及び評価結果に基づく表示制度」「品質管理及び有害情報の収集等に係る制度」「当該国における薬事関連法令との関係」「健康食品の使用状況及び認知状況」の調査を行います。

<機能性評価専門チーム>

評価対象とする11の成分等に係る「学術論文、研究機関等からのデータ収集」「品質管理方法及び有害事象の報告状況」「諸外国の制度における当該成分の機能性評価状況及びその評価に基づく食品への機能性表示実態」の調査を行います。

「評価パネル」は、これら科学的知見等を踏まえ、食品の機能性の評価に係る評価基準の策定及び個別成分の評価等を行い、また、作業の全体統括及び企画を行うためプロジェクト統括委員会も編成します。

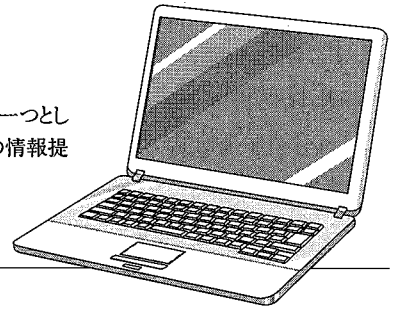
平成24年3月16日には最終報告が予定されております。ぜひみなさん注目してみてください。



ホームページリニューアル

日本食品指導士のホームページをリニューアルいたしました。今後も指導士の皆さんの交流の場の一つとしてさらに活用していただけるようコンテンツの充実を図ってまいりたいと思います。皆様からのたくさんの情報提供お待ちしております。

アドレス <http://www.jfqao.jp/>



メールマガジン再開しました。～携帯メールにもメルマガを送れます！～

メールマガジンも再開いたしました。休刊中は皆様にご迷惑をおかけいたしました。当面は月2回発行予定ですが、今後、今までのメールマガジンのペースを壊すことなく、徐々に頻度・内容等も充実してまいりたいと考えております。

メールマガジンは携帯メールにもお送りできます。パソコンをお持ちでない方、会社にしかなくなかなか閲覧できない方、ぜひ携帯メールアドレスもお知らせください。

掲載情報も広く募集しております。ぜひ下記メルアド、またはFAX、お葉書等でお知らせください。

(メルアド: info@jqao.jo FAX: 03-3268-3136)

橋口さちこ 指導士 新聞紙面を飾る!

2011年9月20日付 読売新聞で「特定保健用食品(トクホ)が誕生20年・表示を正しく読む教育を」との記事にて、橋口指導士が淑徳大学の連続公開講座「食と健康 イキイキ講座」にて集まった約20人の受講生にトクホの説明をしているところが写真付きで掲載されました。



指導士会 幹事・委員の 行動記録 (H23・6/4～11/10)

- 6/4 総会
- 6/5 健康博覧会設営
- 6/7～9 健康博覧会 2011 出展
- 6/14 会計引継ぎ
- 6/15 すみだ食育フェスティバル2011 パネル発送
- 6/17 すみだ食育フェスティバル2011
- 6/18 幹事会の打ち合わせ
- 6/20 UBMメディアの取材(協会にて)
- 6/26 千葉支部セミナー 挨拶
- 6/27 前幹事阿部さんと引継ぎ(山形)
- 6/29 29期養成講習会 受講者の懇親会 挨拶 健康ジャーナルの取材
- 7/1 第2回幹事会
- 7/5 会計、会員名簿の件で協会にて打ち合わせ
- 7/6 九州支部の古泉さんと立ち上げの打ち合わせと懇親
- 7/14 発送の封筒その他事務用品調達
- 7/15 会員に発送する総会議事録その他資料の印刷(協会)
- 7/26 発送資料印刷
- 7/27 協会青山事務局長と面談 印刷と封筒張り
- 7/29 会員に資料発送
- 7/30 加藤常務、青山事務局長と面談
- 8/5 第3回幹事会
- 8/9 教育新聞社との面談
- 8/24 メルマガの件で打ち合わせ
- 8/25 金澤一郎先生訪問
- 8/30 加藤常務、青山事務局長と面談
- 9/7 第1回食品開発協会との打ち合わせ



- 9/9 慶應大学、金澤秀子先生打ち合わせ 秋期研修会東京支部との打ち合わせ
- 9/13 第2回食品開発協会との打ち合わせ
- 9/17 第4回幹事会
- 9/26 広報委員会
- 9/28 第3回食品開発協会との最終打ち合わせ
- 10/2 千葉支部セミナー
- 10/3 食品開発 パネル及び資料発送
- 10/4 食品開発 ビックサイト設営
- 10/5～7 食品開発 2011(青山事務局長と対談、九州支部の古泉さんと打ち合わせ、教育新聞社と面談、グレインエスビーと面談)
- 10/12 NR協会副理事と面談
- 10/13 会員への発送資料の印刷
- 10/14 会員への発送資料の印刷
- 10/17 業者に発送依頼のための会員名簿作り
- 10/23 アドバイザースタッフの水準を保つためのシンポジウム 講師
- 10/25 機能性評価シンポジウム参加
- 10/25 関西支部坂口さんと京都で打ち合わせ
- 11/1 会報誌打ち合わせ
- 11/2 第30期養成講習会受講者の懇親会 挨拶
- 11/5 東京支部との合同秋期研修会 協賛依頼(皇漢薬品研究所)
- 11/9 第5回幹事会
- 11/10 グレインエスビー 協賛依頼



ぜひ指導士会にご入会いただき活動にご参加ください。指導士会は皆様の新しいエネルギーを必要としております!